



Kansai Vision
2030

2026年3月26日
産業部

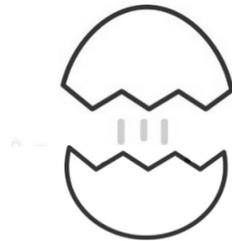
めざせ、空飛ぶクルマのファーストペンギン ～社会実装と広域展開による「大関西」の実現～



公益社団法人
関西経済連合会

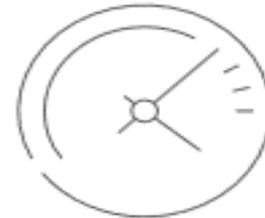
1. 関西経済連合会について
2. 大阪・関西万博に係る取り組み
3. 次世代空モビリティ実務者会合
4. 将来ビジョン
5. 今後のスケジュール

- 関西から日本経済の発展をめざした、主として関西一円で経済活動を展開している企業、団体、学校法人など約1,300が加盟する地域の総合経済団体



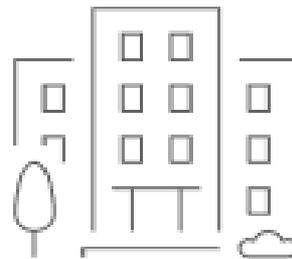
設立

1946 年



創業年数

79 年



会員

約 **1,300**

1. 関西経済連合会について：歴史

1946～1980年



55年～ 道州制提言

関西国際空港



79年 関空建設促進協設立



71年～ 訪中関西財界代表团



80年～ アセアン経営研修



等

90年代～ 各国協力合意書締結

1981～2000年

99年 関西広域連携協議会設立

94年 関空開港

けいはんな学研都市



83年 けいはんな促進協設立

94年 まちびらき



90年 太平洋人材交流センター設立



10年 アジア太平洋研究所設立

2001年～現在

10年



設立

18年 関西3空港一体運営

03年 関西国際観光推進センター設立

17年

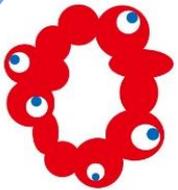


設立

誘致マークロゴ



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO
2025

17～18年 大阪・関西万博誘致

15年 関西健康・医療創生会議設立

18年 関西スポーツ振興推進協議会設立



19年 ABCプラットフォーム設立



1. 関西経済連合会について：委員会活動

- 下記13の委員会活動を通じて、関西経済の成長・発展に向け、取り組んでいる。

委員会名	所管部
経済財政委員会	経済調査部
企業制度委員会	経済調査部
地方分権・広域行政委員会	地域連携部
科学技術・産業振興委員会	産業部
ベンチャー・エコシステム委員会	産業部
地球環境・エネルギー委員会	経済調査部
国土・広域基盤委員会（リニア・北陸新幹線専門委員会）	地域連携部
都市・観光・文化委員会（都市創造専門委員会）	産業部
DX委員会	産業部
スポーツ振興委員会	地域連携部
国際委員会（アジアビジネス専門委員会）	国際部
労働政策委員会（ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）専門委員会）	労働政策部
万博特別委員会 ※正副会長、各委員会の正副委員長で構成する委員会 【2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けて】	万博推進室

2. 次世代空モビリティ実務者会合

- 関西では、大阪・関西万博を契機に空飛ぶクルマの社会実装に向けた検討が各地で進むなか、当会会員企業より、関西広域でのビジネス化に向けた協調領域における面的な連携が必要の声を受け、**昨年6月に経連を事務局とする「次世代空モビリティ実務者会合」を設置。**
- 実務者会合では、今年度、大阪府や近畿経済産業局と連携しながら、**関西広域でのビジョンの策定**や、自治体へのバーティポート残置の要望等に取り組んできた。

[広域] 次世代空モビリティ実務者会合

▶2025年6月～／事務局：関西経済連合会

構成：運航やバーティポートの運営、関連設備にかかる事業者、および事業への知見を持つ企業

オブザーバ：自治体や国など

アドバイザー：日本政策投資銀行 岩本学 調査役

活動：**関西広域でのビジョン策定**、経済界での機運醸成、**自治体への要望** 等

相互
連携

- ・運航ビジネスモデルの具体化
(実証・社会実装に必要なポートの特定／商用の航路設定
(ネットワーク形成)、合意形成、およびそのための座組検討)、
- ・協調領域の特定、および連携(インフラ整備、人材育成等) など

[大阪] 空の移動革命社会実装

大阪ラウンドテーブル

▶2020年11月～／事務局：大阪府

構成：大阪でのビジネス化を視野に入れる93事業者・団体

活動：社会受容性向上、環境整備(実証、離着陸場適地調査等)等 ※大阪版ロードマップを2022年3月に策定

[広域] 関西eVTOL社会実装推進会議

▶2024年2月～／事務局：近畿経済産業局

構成：近畿管内7府県、および経産省

活動：社会受容性向上(近畿管内7府県)、
情報提供、ポテンシャル調査

- 当会では「関西ビジョン2030」のコンセプトとして、「先駆ける関西、ファーストペンギンの心意気」を掲げた。このコンセプトを空飛ぶクルマ分野においても体現すべく、関西が積極果敢に挑戦していく意思を下段のコンセプトに込め、将来ビジョンを策定した。

コンセプト

めざせ、空飛ぶクルマのファーストペンギン

～社会実装と広域展開による「大関西」の実現～

イメージ図



万博から
10年先を
ターゲット

2035年 ありたい姿

～地域の姿～

- ・ 観光地との連携が進展
- ・ 短い移動時間と美しい景観が大きな魅力となり、新たな観光需要を喚起
- ・ 都市内で運航量が拡大し、多くの人利用可能な都市内交通手段の1つに成長
- ・ 山間部や離島部の移動手段としての活用が開始

～運航の状況～

- ・ 大阪ベイエリアを中心とした半径80km円内の「中心エリア※」で100機程度が運航
- ・ 「中心エリア※」と周辺の「今後検討が必要な候補エリア※」間でも日常的に運航
- ・ 官民が連携し、民間主導で必要な数量のバーティポート・格納庫等の設置が完了

～地域の姿～

- ・ 遊覧を含む観光などの用途で複数のルートでの運航が日常化
- ・ 都市内で十分な運航実績を保有
- ・ 安全で便利、低騒音な移動手段として運航地域が受容

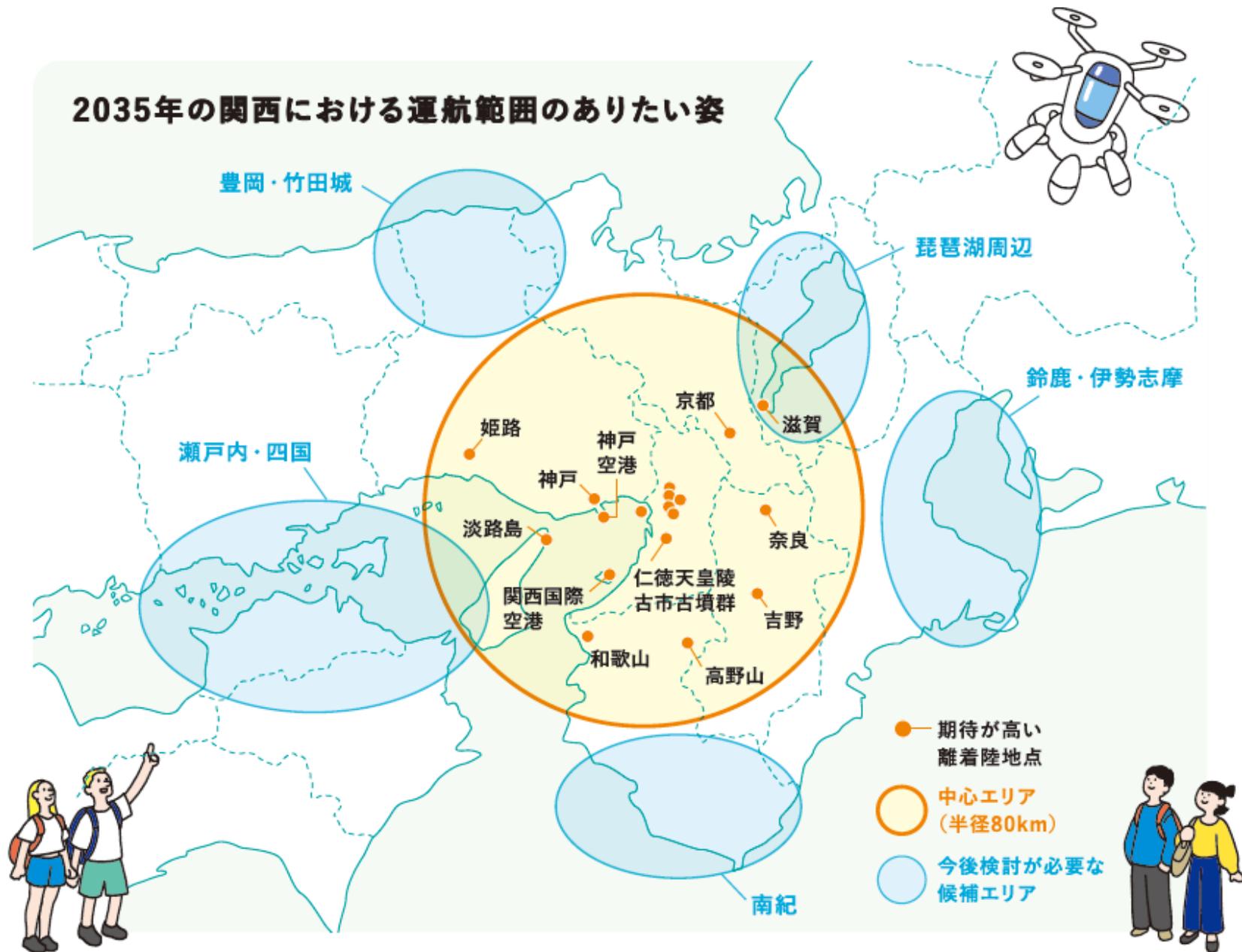
～運航の状況～

- ・ 運航や離着陸場の整備・運営などの事業で安定して採算を確保
- ・ 「期待が高い離着陸地点※」の一部で離着陸場が運営され、2地点間の商用運航が継続
- ・ 「期待が高い離着陸地点※」を中心に、民主導で離着陸場の数を増やす機運が醸成
- ・ 高密度・多頻度の運航に必要な仕組みを構築する準備が進展

2035年から
バックキャスト

2030年 あるべき姿

2035年の関西における運航範囲のありたい姿



- ビジョンで示した将来像の実現に向け、今後対応しなければならない課題、およびその解決に向け関西が取り組むべき方向性は以下の通り。今後、経済界、国、地元自治体とともにオール関西で万博レガシーを展開していく体制を構築し、本格的に空飛ぶクルマの社会実装に向けた活動支援に移行する予定。



1. 関係する制度の早期整備と運用を踏まえた適正化

- ・ 今後策定されるバーティポート整備基準や自治体のアセスメントに係る条例について、継続的なフォローアップと、機体特性等を踏まえた基準の適正化などの働きかけ
- ・ 操縦士や整備士の資格要件の適正化に向けた働きかけ 等



2. 運航や離着陸場の運営にかかる事業の安定と成長

- ・ 普及初期の運航が低密度である期間に限定した事業者への支援
- ・ 旅客需要の拡大が見込まれる関西国際空港や神戸空港の円滑な利用
- ・ 関西観光本部などと連携した、広域観光の促進、旅客需要の掘り起こし
- ・ サプライチェーンの構築（交換部品の安定的な確保、官民連携での人材育成など）



3. 離着陸場を増やす機運の醸成

- ・ 公共用地の活用も視野に入れた用地確保、バーティポート設置を考慮した都市計画の検討
- ・ バーティポートに必要な充電設備等の設置への支援
- ・ 事業者と離着陸場周辺の自治体との丁寧なコミュニケーションの推進



4. 高密度・多頻度の運航に必要な仕組みの構築の準備

- ・ 新しい管制方式に関する情報収集と関係する研究開発プロジェクトへの貢献

- 2025年12月より、経済産業省が主催する2025年日本国際博覧会成果検証委員会が開かれ、大阪府市とともに当会も参加。2月に開かれた委員会で示された、大阪・関西万博のレガシー展開に係る基本方針は以下の通り。

◆大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針と取り組み内容（案）

(1) 万博で創られた「つながり」の活用

■ 最先端技術等の実装化・産業化（←★次世代モビリティを含む★）

- JETROによる海外との連携・展開支援
- 海外若手研究者や専門人材との知的交流を促進
- 国際交流プログラム
- 万博に関連した広域観光促進

(2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

- 未来世代の価値体験機会を拡大
- 全国各地でのイベント展開
- 次期以降の万博出展・イベント等を通じた海外への展開

(3) 夢洲の「場の記憶」の継承・展開

- 大屋根リングの残置
- 記念館の展示
- ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等）
- 万博に関連した広域観光促進
- 記念公園での文化・芸術イベント